



鰻 西郷 道 うなっ・せごどんのみっ

NPO法人 縄文の森をつくろう会 (info@jomon-no-mori.com)



佐賀の乱の戦線を離脱した江藤新平は、指宿十二町から山川鰻を結ぶ林道を辿って鰻温泉に逗留中の西郷隆盛を訪ねました。林道はやがて廃道となったものの、“長崎フルベッキ研究会”の石田孝氏のご発案に基づき、NPO法人“縄文の森をつくろう会”が2013年2月に明治時代の地図に基く復元を完了（台風による崩落や新たな林道の敷設等に伴う地形の変化があるため、当時の林道を完全に再現したものではありません）。“うなっ・せごどんのみっ”と名付けて、当時のエピソードを紹介するガイド・ツアーを開始しました。

旧林道が吟松別館 悠離庵様の敷地内を通過するため、当初は右のマップの①の標識から北に迂回するルートAをご案内させて頂いていましたが、悠離庵様からのお申し入れもあり、2018年からは本来の林道跡となるルートBをご案内することもできるようになっています。

また、コースは鰻温泉口まで0.7Km（指宿十二町口から 3Km）の地点②で再び旧林道を外れて南に迂回しますが、これは鹿児島市の甲突川五橋のうち二橋を流したことでも知られる8・6水害（平成5（1993）年8月豪雨）の先行降雨により7月7日に崩落が発生して以降、ここから鰻温泉までの区間が完全に廃道となったことによるものです。念のために痕跡を確認していますが、とても責任をもってご案内できませんのでご了承ください。



鰻温泉到着後、入浴と県料理の昼食をお楽しみ頂きますが、周辺にはカルデラ湖の鰻池の他、南北朝時代の方柱板碑の残る鰻地蔵、明治期に移行していた連房式の窯跡といった遺構も残されています。ご興味をお持ちの方はご案内させていただきますので、ご遠慮なく会員にお申し付けください。

NPO法人“縄文の森をつくろう会”は、指宿・頰娃地方の地質遺産・史談を紹介する“指宿・頰娃ジオサイト (www.geo-ibusuki.com/)”を運営しており、“うなっ・せごどんのみっ”と鰻での西郷隆盛と江藤新平のエピソード等を、その中の“池田湖テフラ”のページ (www.geo-ibusuki.com/Geo/Ikeda/IkedaTephra.htm)で紹介しています。“鰻池マール”のページ (www.geo-ibusuki.com/Geo/Unagi/Unagi.htm)もごさいますので、併せご参照ください。



「うなっ・せいじんのみつ」

長崎フルベッキ研究会

石田 孝

「うなっ・せいじんのみつ」と

は明治維新の立役者維新十傑で参議の西郷隆盛と初代司法卿江藤新平が鰻温泉での物別れ会談の後共に歩いた道です。およそ40年前崖崩れで不通になっていた由緒ある道をNPO法人「縄文の森をつくろう会」が再現しました。

歴史上に多くの偉人が登場しますが「・・・さん」付けで呼ばれる人物を、西郷さん（鹿児島弁でせごどん）を於いてほかに、私は知りません。皆さんはいかがですか。この道を歩きながら「なぜせごどんなのか」を分かっていたただけから幸いです。

西郷隆盛（文政10（1827）年12月7日鹿児島生）

明治10（1877）年9月24日西南戦争で自害享年50才）は維新三傑の一人で江戸城無血開城、廃

藩置県など新政府の改革は西郷さんの器量に負う所が大です。明治6年10月征韓論正しくは朝鮮に開国を勧める使節を派遣する遣韓論の論争で敗れ野に下り、故郷に私学校や吉野開墾社を開き、鹿児島下の山野で狩猟、温泉湯治、読書瞑想の日々を過ごしました。

身長180cm弱体重100kgを越す巨漢は酒をほとんど嗜まず甘党で鰻が好物の大食漢でしたが、新政府の激務からくるストレス太りだったようで、天皇のドイツ人侍医ホフマンのダイエットの勧めで兎狩に勤しみます。

明治7年2月15日夕方、従者2人犬13匹（15匹とも）を連れて鰻温泉へ着いてから1ヶ月間福村市左衛門初・ハツさんの温泉宿に滞在した西郷さんの生活は、朝7時頃起床朝食後雨天以外は4・5匹の犬を連れて遊猟に出かけましたが、専ら開聞岳の方であつたそうです。不猟は稀でたいがい1〜3羽を捕獲しては料理して食したそうです。入浴後少しの焼酎で晩酌し11時頃に就寝。山川から魚を取り寄せたり、缶詰・

牛乳（バター）・鶏卵なども食べましたが、それらを犬にやることも度々でした。狩猟に出かけない時は鰻池まで散歩をしたり近所の子ども達と遊んだりして、また雨天の日は読書瞑想し漢詩を作つて過ごしたそうです。

明治政府に対する不平土族の反乱である「佐賀の乱」（佐賀戦争ともいわれる）の首班格征韓党の江藤新平は現行の法務大臣・最高裁長官・国家公安委員長に相当する初代の司法卿であつた江藤は日本の司法制度の土台を築きました。明治7年2月佐賀の乱を起しますが、大久保利通内務卿が率いる政府軍によって2月28日に鎮圧されます。

江藤は佐賀を脱出し海路米ノ津に着き鹿児島を目指したのは西郷さんの決起を促すためです。政府軍は人相書きと写真を配布、密偵が後を追う中、3月1日揖宿村秋元に従者舟田次郎と共に人力車で着き、民家で休憩した後案内人を立てて鰻温泉に向かいます。

徒歩だと鹿兒島まで片道10時間ぐらい、人力車は車夫二人交替で4-5時間で早いほうだったとかいうことです。

西郷さんは訪問に驚いたものの快く会談に応じたが3時間の密談の内容は明らかではありません。江藤は午後9時頃近く退出して近隣の福村正左衛門宅に一泊し翌早朝から4時間に及び再会談も談論激高、「ゆうてんゆうてんきさいれがござらんとあてがちがますぞ」の西郷さんの言葉のみが響き物別れ会談となります。

江藤は午前9時頃鰻温泉を去りますが、失意の彼とこのまま別れるのに忍びがたい心根やさしい西郷さんは、指宿湊までこの山道を送って行きます。

二人は従者を連れて標高差250m・距離約4kmを進み、たどり着いた先は、地蔵馬場通り（専売局通り・現在セントラルパーク付近）の（漢方医で）区長の高崎庄兵衛宅です。「江藤が厳しい刑に処せられるようだったら減刑の手段を講じよう」との話が伝えられています。区長宅に一泊し西郷

さん手配の船で鹿兒島に向けて立ちますが、高知で捕縛せられた。日本で最初のモニタージュ写真の考案者であり、最初にその手配書で捕まった第1号が江藤新平です。後にかつての部下の裁判官から死刑を言い渡されました。

南洲翁は鰻温泉を去るにあたり、垂水に行く予定だが後日訪ねてきた者には行く先を明かさぬように言い置かれ、御礼として狛犬一匹贈ろうとのことでしたが、宿の主人が犬は怖いのでと辞退されたので、自ら着用のフランネルのシャツを置き土産にされたとのことで、今でも福村家の家宝とのこと。

西郷さんはフィリア（象皮病）に罹っていて馬には乗れなかった。鞆丸が大きく腫れ、後の西南の役で西郷さんの首なしの遺体を識別するのに利用されました。

西郷さんは民宿を経営する福村市左エ門、ハツさんの宿に約1ヶ月滞在していた。西郷さんは毎朝7時起床。温泉につかり、朝の食事。特に牛乳は好物。雨が降らない限り、市左エ門の道案内で開聞岳山麓方面にウサギ狩に出かけた。

宿に着くと今日の成果を報告。晩酌は焼酎。来客が絶えなかった。客が返ると11時頃就寝。雨の日は壁に静座妄想して、読書にふけた。

さて、福村ハツさんの西郷評は「それはやさしいだんな様でした。顔はいつもニコニコして、言葉はやさしく、ハツさんの3歳の息子の頭を撫でて、カステラなどもいただきました。」

よく肥った、恐ろしいほど肥えた人で、狩が大好きで、そのときは俊敏でしたが、家の中ではあまり動かず、大きな目をしていた。鹿兒島の銅像にはあまり似ていないそうです。「西郷さんの食べ物の好みは「牛乳・ご飯は3杯・缶詰・卵、魚は山川湊から取り寄せていました。キンカン・たばこが好きで、お茶より水が好き、タコはきらいでした。狩に出かけて、市左エ門さんと炉端に腰を下ろし、タバコを曇らせていたそうです。島流しを含めて3度結婚しています。いつもだれにもやさしく「オーソージャー」と相槌をうっておられました。」

人の好意はよろこんで受け、湯に入っても人が背中を流してくれたら、必ずお返しにその人の背中を流し、こっけいな冗談を言ったり、人を笑わせ、相撲に興じたり、焼酎を飲んだ後は 三味線を引いて歌うのを聞いて喜んだり、ひとつなつこい話題は豊富でした。

さて鹿兒島では西郷さんのことを鹿兒島弁で親しみを込めて「さいごうどん」「せごどん」また「うごさあ」といいます。

西郷さんは県内の数箇所の湯治場を訪問していますが、大好きのも西郷さんが13匹の犬と一緒に訪れたのは鰻池だけです。また、漢詩も数点残していますが、鰻池が桃源郷のようであったと思います。その漢詩の一部を紹介します。

その1

柴が門を斜めに被っているのが（粗末な門が半分開いているのが）心情を深くとらえ、家の軒外には谷川の水の音が静かに聞こえる。風呂上がり、静かな住まい

の

窓辺で茶をいれていると、冬の冷たい（鰻）池には月が映り夜明けの空（月光）は清々しい。

その2

薄雲のようになびく湯煙が家の周りを抱き込んでいつも春の日のように暖かであり、

天が沸き湧き出させた温泉は澄んでいて濁ることはない。ひっそりと静まりかえった環境に包まれて、ゆったりと落ち着いた私のこの心情を一体誰が知ることができようか。半分開いた窓辺でのどかに見る夢はいつしか桃源郷に入っていた。

その3

官職を辞めてのんびりと体を休め、天地万物の自然に心身を任せて貧困とか立身出世とかを忘れてしまふ。温泉に浸かった後、花瓶に挿された梅の花の下で穏やかに横になると、広々と果てしないゆったりとした気分をきっと知るのであろう。

「うなっ・せごどんのみっ」のウォークいかがでしたか？指宿は温泉地として 西郷が使えた島津 斉彬公もたびたび訪れていました。

鰻温泉は 指宿の他の温泉とは違い 単純硫黄温泉です。ウォークで疲れた体を休めるのにぴったりです。また、火山性蒸気力マド「スメ」でつくる料理もうまいですよ。